第46回夏季大学の実施報告

教育と普及委員会

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，小・中・高等学校の先生と気象を学んでいる学生や一般の方を対象に，毎年夏休みの時期に「夏季大学」を開講している．今回の夏季大学は，８月５日（日），６日（月）の２日間，東京都立川市の国立極地研究所で開講した．テーマは，近年，地球温暖化や異常気象の原因として特に注目されている『北極』に注目し，「北極温暖化と異常気象」とした．北極に関係する最新の理論や観測技術，また，それらを通じて得られた知見について講義を通して学んでもらった（第１図）．また，２日目の午後には国立極地研究所の施設見学を実施した．受講生は60名に達し，関東地方近郊だけでなく，遠くは中・四国地方や近畿地方から参加されている受講生もいた．また，年齢は10代から80代までの幅広い年代であった．講義中のみならず，休憩時間中にも質問をされる方が多く見られるなど，受講生の熱心な姿が印象的であった．

夏季大学当日は，以下のスケジュールで進めた．

［プログラム］

第１日目　８月５日（日）

○「北極域の気候変動と中緯度への影響」
　　北海道大学　山崎孝治氏

○「北極圏の温暖化と雪氷変動」
　　国立極地研究所　榎本浩之氏

○「地上気温と降雪」
　　国立極地研究所　平沢尚彦氏

○「北極からみた「地球温暖化」の真実」
　　海洋研究開発機構　堀　正岳氏

第２日目　８月６日（月）

○「極域・寒冷域の気候変動と日本の異常気象」
　　海洋研究開発機構　高谷康太郎氏

○「極地の雲・エアロゾルと気候影響」
　　国立極地研究所　塩原匡貴氏

第１図　講義風景．

○国立極地研究所施設見学

全講義終了後に受講生から提出してもらったアンケートによると，講義の難易度に関しては，概ね「適当である」という回答であった．また，内容に関しても，「興味深い」との回答が多数であった．記述形式のアンケートには，話題性のあるタイムリーなテーマで興味深かったという意見や普段はめったに話を聴けない専門家から話を聴くことができて良かったという意見があった．今回の夏季大学のテーマや講義の難易度としては，概ね適切であったものと考えられる．これもひとえに，講師の方々のおかげである．一方，運営に関しては，照明，マイク，空調などに関する意見が少なからずあった．講義を快適に受講してもらうことは重要であることから，来年度以降，しっかりと改善したいと考えている．

最後に，多忙にもかかわらず夏季大学の講義を引き受けてくださった講師のみなさまに深く感謝する．また，会場等の準備や２日目の施設見学の対応をして頂いた国立極地研究所の関係者の方々に感謝する．